

農村景観日本一

# 富田ウォーキングコースガイドマップ



農村景観日本一

ウォーキング  
コース  
見どころ

Aコース  
(全長約4.0km)

スタート:ふるさと富田会館

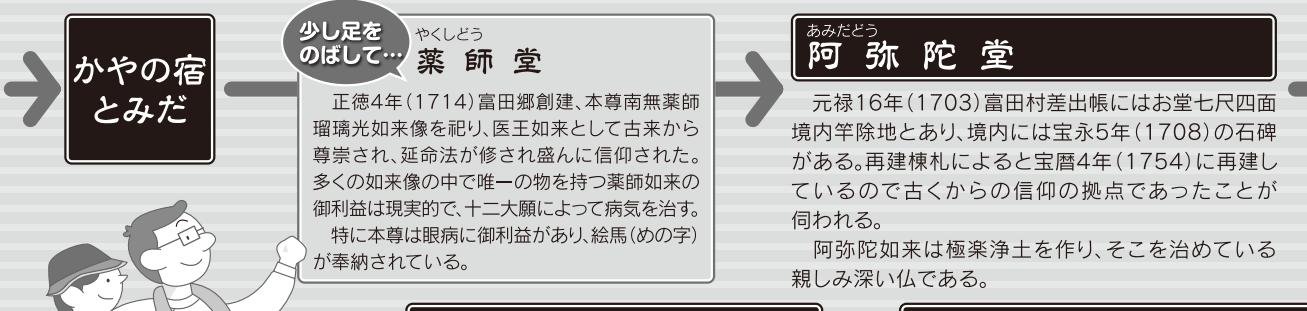
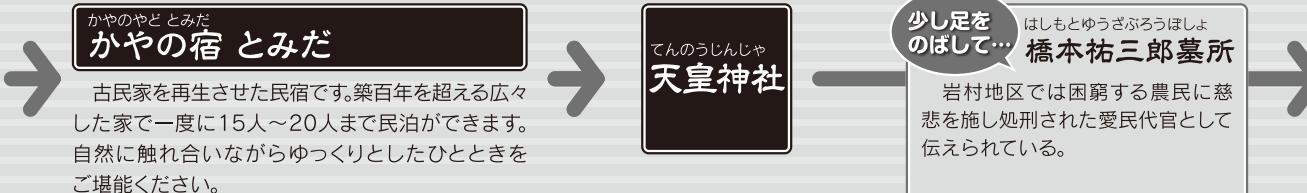
平成元年、富田地区の田園風景が国土問題研究会から「日本一の農村景観」と折紙をつけられたことに始まる。

同研究会は、山や川・森・建物など景観を形成する要素を総合的に分析する組織で、その中で富田地区は近代的な建物が殆ど無く、岩村城跡のある城山や水晶山の山並みを背景に、広葉樹や針葉樹の森、瓦と白壁の農家、ため池が水田の中に程よく配合されており「古い日本の農村景観を見事にのこしている」と称賛をうけました。



岩村城は鎌倉時代(1185年)に築城された。大和の高取城(奈良県)備中の松山城(岡山県)と並ぶ日本三大山城の1つに数えられる城標高717mの山頂にあり、城下町を見下ろし四方の山々を一望することができます。

天然の峻険な地形をよく利用した要害堅固な山城で江戸諸藩の府城の中では、もっとも標高が高いところに築城されておりしかも明治維新まで存続したのが、この岩村城であります。



打杭峰にある「さかしま桜」を郷土の偉人下田歌子女史が詠まれた歌であり、筆は女史の自筆である。「松にのみ 千代はゆるさじ山さくら はなもときには咲くてふものを」と刻まれている。歌子の歌碑はこのほかに城山登城口の顕彰碑がある。



弘法堂  
こうぼうどう  
本堂の字名が申堂となっていることから庚申さまも祀られている。

本堂には、高野山弘法大師像が祀られ、空海大師信仰は、行動力にあふれる行脚像に象徴され、弘法講は全国で江戸時代に最も盛んとなり念佛、和讃を唱え心に根ざした教えとなつた。本堂でも春・秋に集い弘法様の行事が行われている。

東光院  
とうこういん  
当山は大円寺に属した寺であり、大永年間(1521~28)に打杭の山中に開創された。元亀三年(1572)11月、大円寺焼失の折り、本尊不見日觀音(11面)が移されたと伝えられる。後に大円寺再興を志すも叶わず、当山を現地に移して大円寺の代りとした。

庚申堂  
こうしんどう  
江戸時代初期に東光院の南側にあったとされる。

元禄16年(1703)の富田村差し出し帳に(庚申堂九尺四面 清臨庵と申し二間梁に三間の草庵… )とある。

現庚申堂は明治の終わりに東光院へ移築され「弘法大師」と「子安觀音」が合祀されている。